

シュレーディンガ-の猫 量子論大掃除 2026/01/04,5,8,11,14

<http://www.777true.net/Schroedinger's-Cat-the-Quantum-Theory-Cleaned-Up.pdf>

*付録2:量子計算機改定 1/8.*付録2:廃止で以下へ全面一括移動、1/14。.

<http://www.777true.net/From-unstable-Qubits-to-Stable-pseudo-random-digital-bits.pdf>

2026年は20世紀物質文明基礎の量子力学シュレーディンガ-方程式生誕100年！！

極微究極世界の電子等は日常常識動作とは異質奇怪世界で、有害誤解がつけ込む。
量子力学は思想哲学基礎の認識論原点にもあり、重大弊害誤解も多いので解説。

[1]:量子力学基礎から水素原子電子のシュレーディンガ-方程式。

One Coin 量子力学入門

<http://www.777true.net/Intro-One-Coin-Quantum-Mechanics.pdf>

[2]:量子時計と量子確率過程力学基礎の紹介

<http://www.777true.net/Quantum-Clock-and-Quantum-Stochastic-Mechanics-the-Guidance.pdf>

電気屋は「波数 $f = 1/\text{周期時間 } T$ 」を承知、書き換えると $fT=1$ の普遍関係式。 $T+T+T+....$ が時間になる。同様に量子確率過程力学でも、周波数が系エネルギー統計分散値 ΔE 、時間は熱化学反応一回の時間、分布変化一回の経過時間 Δt 、時計の一回周期時間に対応します。

$\Delta E \Delta t = \hbar$ (プランク定数) ... 量子時計、..... 別名時間とエネルギーの不確定性原理、実は定理。

①量子力学には時間がない。

(3) 状態密度 $|a_k(t)|^2$ は定常、時間変化がない $\Delta t = \infty$ 、系エネルギー分散値 ΔE^2 を計算すると有限、直交展開: $\psi(t) = \sum a_k(t) \phi_k \rightarrow H_0 \psi(t) = i\hbar \partial \psi(t) / \partial t \rightarrow \sum a_k(t) E_k \phi_k = \sum \phi_k i\hbar \partial a_k(t) / \partial t$.

右端は完全直交系展開なので ϕ_k を賭けて積分すると以下が抽出できる。

$\rightarrow E_k a_k(t) = i\hbar \partial a_k(t) / \partial t \rightarrow a_k(t) = a_k(0) \exp(E_k t / i\hbar)$, 状態確率振幅は定常、時間変化なし！！

$\rightarrow \langle E \rangle = \langle \psi(t) | H_0 | \psi(t) \rangle = \sum |a_k(0)|^2 E_k$. エネルギ期待値 $\rightarrow \Delta E^2 = \sum_k |a_k(0)|^2 (E_k - \langle E \rangle)^2 \geq 0$.

不確定性原理: $\Delta E \Delta t \rightarrow \infty$ では矛盾！！。 $\rightarrow \Delta E = 0$.

→自己共役演算子 H_0 の下では固有値状態一個のみ実現、時間変化はない

H_0 のみならず、これと可換な最大観測量 M_0 固有状態も一意成立<後述>。

H_0 下での重ね合わせ原理は非成立<シュレーディンガ-の猫の矛盾解消>

H_0 下では<厳密には標本過程>は一般に言うシュレーディンガ-方程式の線形和は非成立。

$H_0 \phi_k = E_k \phi_k$ $\psi(t) = \sum a_k(t) \phi_k$, 線形和解=重ね合わせ解.....

$\rightarrow i\hbar \partial \psi(t) / \partial t = H_0 \psi(t) = H_0 \{ \sum a_k(t) \phi_k \}$

☞: 但し時間発展系<以下の②><統計集団でのみ理論記述可能>では $\psi(t) = \sum a_k(t) \phi_k$.

状態分布変化 $|a_k(t)|^2$ は統計集団記述の量子確率過程基礎方程式から決定。

②時間発展には非自己共役<非可観測> H_s =非自己共役ハミルトニアンが必須<対偶論理>。

エネルギー値が非可観測不明とは $\Delta E = \infty$ 、実現時間 $\Delta t = 0$..

これは量子系時間発展としての現実=瞬時量子遷移現実に合致！！

現実との整合

場の標準理論は実験整合で、状態遷移確率は非解析的なハミルトニアン密度 $\sim H_s$ から

力媒介のゲージ場と素粒子 spinor 場の演算子積から計算されてます、だがこれらは特異点を共通する超関数積で、これは数学定義がない<非解析的>→決定論情報不足で確率理論になる。

[3]: 時間発展量子系は $[H_0, H_s]$ の保守革新政権交互交代列になる。

(1) その結果、 H_s 持続時間 $\Delta t = 0$ だから H_0 が有限時間 $0 < \Delta t < \infty$ を構成することになる

(2) H_0 保守時代の物理量は時間停止 \Rightarrow 複数の保存物量 \equiv 最大観測量 $MO = \{P_1, P_2, \dots, P_j, \dots, P_M\}$ 。

$$H_0 \phi_k = E_k \phi_k \quad k=0, 1, 2, \dots, \infty, \dots, P_j \phi_k = p_j(k) \phi_k \quad j=1, 2, \dots, M$$

H_0 の固有(直交)関数系は同時に最大観測量の固有関数である。

(3) 任意函数 Ψ に対して可換性が成立: $H_0 P_j \Psi = P_j H_0 \Psi \Rightarrow 0 = [H_0, P_j] \equiv H_0 P_j - P_j H_0$.

同時に最精密物理量が観測可能の意味で重大、非 MO である電子位置はそうは行かない。

[4]: 量子系観測の現実

(1) シュレディンガーの猫 <<Google AI による概要>>

シュレディンガーの猫とは、量子力学の「重ね合わせ」の概念を説明するためにオーストリアの物理学者エルヴィン・シュレディンガーが提唱した思考実験です。箱の中に、放射性物質の崩壊と連動して毒ガスを発生させる装置と猫を入れ、観測するまで猫は「生きている状態」と「死んでいる状態」が同時に重なり合った状態にある、という量子力学の奇妙さをマクロな世界(猫)に当てはめて示したものです。この実験は、ミクロな量子現象がマクロな日常世界に適用された際の矛盾や、観測の役割を浮き彫りにしています。

(2) 観測の現実

観測対象に一切人為的操縦なしに自発的に出て来る物を捕獲測定と観測対象に人為的操縦で非自発的、応答的に出て来る物を捕獲測定の二種しかないのが論理。

(3) 受動測定.

元素自発崩壊状態遷移では $E_i - E_{if} = \Delta E_{if}$ の初期終期エネルギー差値が外部観測器に掛かる。

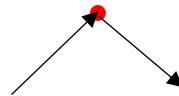
何時にメータ<死刑囚の猫>が動いたかは観測者確認行為時点に無関係。

⇒ シュレーディンガーの猫矛盾解消

(4) 能動測定.

他方非 MO 電子位置測定では観測者電子光子銃発射

での反射粒子観測時点で位置決定 ⇒ 観測による波束の収束



[4]: 一個電子の二本スリット同時通過！！

(1) 真相理解には場の量子論で真空偏極反応、真空偏極連鎖と瞬時トンネル移動の理解が鍵。

(2) 場の量子論: 量子力学普遍の内積計算 $\langle f | H_s | i \rangle$ が初期状態から反応 Hamiltonian = H_s を介して終状態遷移に至る確率振幅算出。

(3) $H_s = \int dx^4 j_\mu A_\mu = \int dx^4 (e \bar{\Psi} \gamma_\mu \Psi) A_\mu \dots \dots$ 電子流 j_μ と電磁場 A_μ 衝突反応の意味。

一般ゲージ場の作用関数<財布と同じあれ>....反応 Hamiltonian のネタ元

$$\mathcal{L}_G \equiv -c \bar{\phi} (\hbar \gamma^\mu (\partial_\mu - A_\mu^a(x) G_a) + mc) \phi - \frac{1}{4} (\partial_\mu A_\nu^a - \partial_\nu A_\mu^a - f_b^a c A_\mu^b A_\nu^c)^2 + (ic)^{-1} B^a \partial_\mu A_\mu^a + \frac{1}{2} \alpha B^a B^a - \chi \underline{\partial_\mu C^a} \cdot \underline{D_\mu C^a} \quad * \langle \underline{D_\mu C^a} = \underline{\partial_\mu C^a} + f_b^a \underline{C^b} A_\mu^c \rangle$$

*素粒子(12個)論完成の量子重力場(11+1次元)もこの型式。電磁場が多種類非線形化(A^a_μ)し

ており、最後の C^a 項<Fadeev-Popov ghost>は物質一般の超双極子形成の基礎反応力。

(4)直観理解直結ファイマン反応図の為の場演算子=生成消滅演算子表現<結果が簡単説明>

$$\bar{\psi} \equiv \sum_s \int d\mathbf{p}^N \{ \mathbf{b}(\mathbf{p}; s) \bar{v}(\mathbf{p}; s) \exp(-\mathbf{p}x/i\hbar) + \mathbf{a}^+(\mathbf{p}; s) \bar{u}(\mathbf{p}; s) \exp(+\mathbf{p}x/i\hbar) \}.$$

$$\psi \equiv \sum_s \int d\mathbf{p}^N \{ \mathbf{a}(\mathbf{p}; s) u(\mathbf{p}; s) \exp(-\mathbf{p}x/i\hbar) + \mathbf{b}^+(\mathbf{p}; s) v(\mathbf{p}; s) \exp(+\mathbf{p}x/i\hbar) \}.$$

$A_\mu(x)$

$$\equiv \sum_\lambda \int d\mathbf{p}^N \sqrt{(1/2|q_0|)} \epsilon_\mu(\mathbf{q}; \lambda) \{ \mathbf{c}(\mathbf{q}; \lambda) \exp(-\mathbf{q}x/i\hbar) + \mathbf{c}^+(\mathbf{q}; \lambda) \exp(+\mathbf{q}x/i\hbar) \}.$$

(a)場演算子は可能性全総和積分の、素粒子運動固関数の前に色刷り生成消滅演算子 $\{abc\}$ の積

(b)生成消滅の和2個の3個演算子積では結果8個の3個積の和が出来る、それが以下

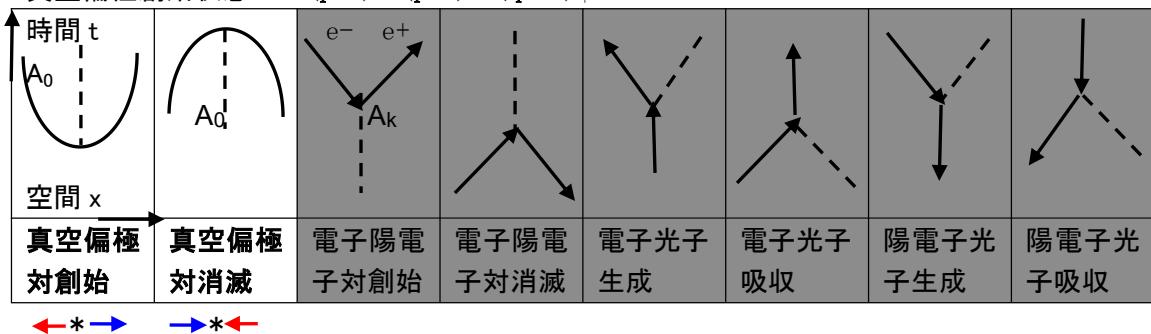
(c)真空偏極創始 $\Rightarrow a^+(\mathbf{p}; s) b^+(\mathbf{p}; s) c^+(\mathbf{q}; \lambda) |0\rangle$,

電子陽電子光子全部が生成演算子積で真空作用

(e)真空偏極消滅 $\Rightarrow a(\mathbf{p}; s) b(\mathbf{p}; s) c(\mathbf{q}; \lambda) \times a^+(\mathbf{p}; s) b^+(\mathbf{p}; s) c^+(\mathbf{q}; \lambda) |0\rangle$,

電子陽電子光子全部が消滅演算子積で真空偏極創始状態に作用、

真空偏極創始状態 $= a^+(\mathbf{p}; s) b^+(\mathbf{p}; s) c^+(\mathbf{q}; \lambda) |0\rangle$

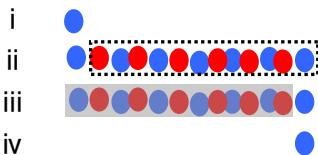


☞: 無から有生成は常識論理では矛盾、だから解消の為即座消滅で無に戻るが、常時反復、全空間に充満、量子真空無限小空間は不確定性原理で ∞ 運動量エネルギー暴れありで、特異点時空間<確率化>。ファイマン図中破線は縦波電磁場 A_0 で引力負エネルギー、電子陽電子双方は正エネルギー。陽電子は時間軸逆方向に走行、

(5)真空偏極連鎖



(6)瞬時真空偏極連鎖トンネル移動



(7)上記如く電子等の空間運動では古典的連続軌道が無く、ランダム双極子連鎖トンネリングで瞬時空間不連続確率移動、2個のスリットに同時存在出来る。真空非可観測性により、相対論速度違反にならない。(軌道がないので速度定義がない、統計平均値で位置速度回復)

[5]: 灵魂意識と量子場論。

要約すれば前者は無法則=全知全能世界現象の奇跡=確率0現象<非再現性>、後者は現代実証主義の再現観測有限確率現象で別物世界になります。

①量子場論の確率0現象≡非可観測 dipole ghost 場 $\{B^a, \langle \bar{C}^a, C^a \rangle\}$.

(1)超常現象事実<非再現性>と量子論は相反しない、
また証明<非再現性>もしない。

非可観測 dipole ghost 場とは全時間空間物理真空場で起きてる真空偏極反応に由来する
土素粒子と反粒子が形成する双極子の場。無から有を生じる真空偏極は論理矛盾、その結果
量子真空世界は論理学爆発定理で”何でも在り！”の無法則=全知全能世界、

過去から現代、世界中で報告される靈魂意識現象由来がここでおきてるとみなされます。
されど明確に真空偏極反応は0確率非可能観測として表向き公式声明では非物理学になる。
0確率≡有限回生起/無限回試行回=無限回再現性がない。……超常現象否定でない物理！

※: 物理学者自身が幽霊場などと定義だから、隠れて彼らも相応の真空認識がある。

(2)天界預言の機構

<http://www.777true.net/Proof-on-God.pdf>

<http://www.777true.net/Scientifical-Mechanism-of-Prophecy-by-Paranormalities.pdf>

付録1:「量子を使うと科学根拠」と言う詐欺

【衝撃】「意識」の正体:脳・量子・宇宙が解き明かす究極の謎

<https://www.youtube.com/watch?v=QOesHZZ-OrU>

宇宙で一番不思議な現象、量子もつれ

<https://www.youtube.com/shorts/RixelSKIFsc>

【成田悠輔の推薦】ビジネスと量子力学！超弦理論の謎【野村泰紀と宇宙】

<https://www.youtube.com/watch?v=lp7PPFsnQAE>

宇宙の正体と”超”対称性とは？26次元と光速を超える粒子の謎【日本科学情報】【宇宙】

<https://www.youtube.com/watch?v=TeCOgC7di7g>

時間は実在しない？量子力学が明かしてしまった『時間の正体』がヤバい.....

https://www.youtube.com/watch?v=WS7UNJ_N5cM

猫が生きていて同時に死んでいる？】量子力学を代表する思考実験「シュレディンガーの猫」から、iPhone や MRI など現代テクノロジーの

<https://www.youtube.com/watch?v=RYt9SelwUrs>

.....

.....

.....

但し以下は正解近傍ではないかと思います。

ペンローズは正しかったのか？誰も予想しなかった脳への量子効果！

<https://www.youtube.com/watch?v=FHyKY1y8sLk>

https://www.youtube.com/@sleep_space

問題核心の micro tubulin は細胞内成分、単細胞にも意識があるはゾウリムシで見るとし・

植物がそれを証明、中枢脳が見えないのに全体調和意志、細胞間意識通信が成立です。

分子形成の化学力は静電クローン力ですがこれは土電荷間の**双極子連鎖**が介在してます。

生存活動**本能=意識**は AI が一途に素材試行錯誤合成で希望対象獲得指令と行為で同じです、
意識=問題解決願望と試行錯誤検索です。

虫が**触角**の振り回しでエサ検索捕食と同じ本能、micro tubulin は多枝触角そつくりです。

付録2:無能腐敗支配学界とその用心棒(鈴木の猫).

知恵は組織救済して意味がある,会田雄二,決断の条件,新潮社、

研究者専門知識には敬意しますが、大学学会組織の世情救済能力と姿勢は無能腐敗！！。